

米国企業における知財分野での生成AI活用に関する調査

調査概要

本調査では、米国企業や法律事務所が知的財産（IP）分野で生成AIをどのように活用しているのかを整理した。具体的なユースケースや導入事例、AIツールの提供企業、メリットとリスク、法的論点、規制当局の見解、今後のトレンドなどをまとめ、日系企業が米国でAIを活用する際の参考とする。情報源は2024～2025年に公開された米国の公的機関の資料や法律事務所の分析記事、テクノロジー企業の製品ページ、事例紹介などである。

1. 知財分野における生成AIのユースケース

主な用途	説明・具体例	参考文献
先行技術調査・特許調査	大規模言語モデル（LLM）や独自のデータベースを用いて膨大な特許文献・学術論文を瞬時に検索し、類似技術や無効資料を抽出する。Dolcera社の IP Author では、グローバル特許および学術データを用いたAI先行技術検索機能を提供し、従来の人手検索に匹敵する結果を数分で返す ¹ 。DeepIPもAIにより特許性評価や先行技術分析を支援している ² 。	1 2
特許明細書のドラフト作成	ユーザーが発明概要や図面・クレームのドラフトを入力すると、LLMが詳細な特許明細書を生成する。IP Authorは詳細説明や請求項の草案、フローチャートなどを自動生成する機能を備える ³ 。DeepIPはMicrosoft Wordアドインとして動作し、図面から文章生成やスタイルに合わせた記述支援、品質レビュー機能を提供する ² 。特許専門事務所Sterne Kesslerは市販ツールではなく独自の「Patent Assist AI」を開発し、発明開示書と弁護士が作成したクレーム・図面から明細書の説明部分を生成している ⁴ 。	3 2 4
商標検索・リスク評価	商標名やロゴを自然言語で入力すると、AIが類似商標や関連判例を抽出してリスクを数値化する。Clarivateの RiskMark は、1億7,250万件の商標データと500万件以上の訴訟データを組み合わせて類似性リスクを総合評価し、異議申立て文書の草案まで生成する ⁵ 。Questelは生成AIを用いた商標・意匠検索や侵害検知を進めており、画像検索や自然言語によるクラス検索を実現している ⁶ ⁷ 。	5 6 7
契約書分析・ライセンスシシング	Literaの Kira などの契約レビューAIは、数千種類の条項を抽出し分類して欠落条項やリスクを提示する。KiraはOpenAIモデルと連携し、要約やレポート作成を支援している ⁸ 。またMaxValは、生成AIにより過去のケースや審査官の傾向を分析し、ライセンス契約書や応答文の自動作成、コード生成によるデータ統合を将来展望として示した ⁹ 。	8 9

主な用途	説明・具体例	参考 文献
その他 (デザイン・コンテンツ生成)	ブランディングや製品デザインにおいて生成AIがアイデア出しやロゴ作成を行い、それと連動した商標クリアランス検索へつなげる取り組みも始まっている。 Questelは顧客向けに生成AIで命名やロゴ案を作成し、同時に商標検索を行うコンセプトを紹介している ⁶ 。	⁶

ユースケースのまとめ

生成AIは特許や商標の調査・出願プロセスを大幅に効率化する。特許分野では、先行技術調査や明細書作成、図面生成が自動化され、弁護士はクレーム設計や発明の本質的検討に注力できる ²。商標分野では、大量の登録データと判例データに基づきリスク評価や侵害検知が可能となり、従来必要だった膨大な手作業が削減される ⁵。契約書分析やライセンス交渉でもAIが条項の抽出やドラフト作成を支援しており、知財実務全般に生成AIが浸透しつつある。

2. 生成AIを導入している米国企業の事例

特許法律事務所・法律サービス

- **Guntin & Gust (G&G)** – シカゴに拠点を持つ特許法律事務所。Drafting の時間短縮を目的として DeepIP を導入し、ガイド付きAIが弁護士の入力に合わせて明細書の各セクションを生成し、Microsoft Word で編集可能な形で提供する。導入後、効率と精度が向上し、弁護士から「理想的なツール」と評価された ¹⁰。
- **Schwegman, Lundberg & Woessner (SLW)** – ミネアポリスの特許事務所。セキュリティを重視し、DeepIP を6か月間のパイロットで検証した。SOC 2およびISO 27001認証、ゼロデータ保持、Word アドインなどが評価され、パートナーのSteven Lundbergは「AI支援の未来を構築している」と述べた ¹¹ ¹²。
- **Sterne Kessler** – ワシントンD.C.の特許法律事務所。市販ツールではクオリティが不十分かつ顧客データを外部に渡すリスクが高いと判断し、独自の「Patent Assist AI」を開発。発明開示書と弁護士が作成したクレーム・図面をもとに詳細説明を生成し、弁護士が編集する方式を採用している ⁴。
- **Greenberg Traurig** – 特許弁護士Barry Schindlerが2025年の対談で、「特許業界はAIの軍拡競争に突入しており、アソシエイトや他事務所がAIツールを使っている以上、導入しないと競争力を失う」と語った。DeepIPはデータを暗号化して保存せず、ISO 27001・SOC 2準拠のセキュアな私有クラウドを採用していると説明している ¹³。
- **Finnegan** – 2025年9月に「AI + Finnegan」プラクティスを新設し、AI技術の特許、著作権、データプライバシー、ライセンシング、商用化についてクライアント支援を行う ¹⁴。これはクライアント向けの助言に加え、自らもAIツールを評価・活用する姿勢を示す。

産業界・その他

- **Anaqua/AcclaimIP** – 特許分析ソフトウェアAcclaimIPに生成AI機能「AI Patent Summaries」を追加し、特許の短い要約からクレームの詳細分析、利点・欠点、先行技術との差異などを生成できる。翻訳機能や要約テンプレートを備え、ユーザーがプロンプトを編集して一貫した出力を得られる ¹⁵。
- **Clarivate** – 商標サービスに生成AIを組み込んでいる。2025年に**RiskMark**を発表し、世界の商標記録と裁判・行政データを用いて類似度を瞬時に評価し、異議申立て用の草案まで生成する ⁵。同年、ブランド保護プラットフォームを刷新し、AIによるリスクランキング、類似度スコアリング、商品・サービス分類などを導入した ¹⁶ ¹⁷。
- **Questel** – 商標・意匠調査サービスMarkifyで画像検索や自然言語検索を提供し、次世代では生成AIを用いたブランド名やロゴの提案と連動した商標クリアランスを構想している ⁶ ⁷。

- **MaxVal** – ブログで、生成AIが歴史的な審査官の傾向分析や自然言語レポート作成、コード生成によるデータ連携、自動応答文生成、商標監視などを可能にし、IP管理を変革する可能性があるとして述べている⁹。
- **NexLaw** – 訴訟支援に特化したAIプラットフォームを開発し、正確な法的資料をもとにリサーチや文書ドラフト、タイムライン管理を行い、ガバナンスやコンプライアンス機能を強調している¹⁸。

3. 知財分野向け生成AIツール／スタートアップ一覧

以下は米国で提供されている主な生成AIツール・スタートアップの一覧である。機能や特徴を簡潔にまとめた。

ツール/企業	主な機能	特徴	参考文献
IP Author (Dolcera)	特許明細書作成、請求項生成、図面作成、AI先行技術検索	独自の特許データベースを活用し、数分で詳細な特許明細書とクレームを生成。米国特許商標庁や欧州向けのクレーム形式をサポート ³ ¹ 。	³ ¹
DeepIP (DeepIP, Inc.)	特許ライフサイクル全般に対応：先行技術分析、図面生成、明細書ドラフト、品質レビュー、オフィスアクション対応	Microsoft Wordアドインとして作業環境に統合。企業向けにSOC 2・GDPR準拠、ゼロデータ保持、暗号化など高いセキュリティを提供 ² 。	²
Rowan Patents (Clarivate)	特許出願作成環境	同期したドラフト環境で明細書・図面・請求項を自動生成し、文脈に応じたセクション更新を実現。生成AIを統合しつつ人間のレビューを前提とする ¹⁹ 。	¹⁹
Paximal	AIによる特許ドラフト生成	「プロンプト不要」のエージェント型AIが数分で完成度の高い明細書を生成。弁護士の作業スタイルに合わせたベストプラクティスが組み込まれていると謳う ²⁰ 。	²⁰
Patently Create / Patently	特許作成支援プラットフォーム	全自動の明細書作成機能や図面エディタ、クレーム管理機能を備え、Questelとの提携により標準必須特許（SEP）データベースと連携しライセンス分析を行う ²¹ 。	²¹

ツール/企業	主な機能	特徴	参考文献
ClaimMaster / Added Matter / Qatent / Solve Intelligence / PowerPatent / PatentPal	特許ドラフトの特定部分を自動生成・チェックするツール群	それぞれクレーム校正、明細書記述支援、多言語対応、AIによる議論書作成などを提供。Patently.comの記事では、これらのツールが弁護士の作業を補助するが最終的な人間の監督が不可欠であることが強調されている ²² 。	22
Clarivate RiskMark / Global Trademark AI Search	商標リスク評価、類似検索	Generative AIと予測AIを組み合わせ、商標データと訴訟データから類似リスクや侵害の可能性を数値化し、反論文書を自動生成。ブランド管理プラットフォーム全体にAIによる脅威ランキング、類似度スコア、商品分類サポートなどを実装 ^{5 16} 。	5 16
Questel / Markify	商標・意匠検索、侵害検知、生成AIによる命名支援	画像検索や自然言語検索に加え、生成AIでブランド名やロゴ案を作成し同時に商標クリアランスをチェックする構想を提示している ⁶ 。	6
Tradespace / MarqVision	特許ライセンス機会分析 / 偽物対策	Specterの市場マップによれば、TradespaceはAIで特許と市場データを分析し、ライセンスや売却機会を発見するプラットフォームを構築中。MarqVisionは生成AIを用いて偽造品を検知し、エビデンスを生成して削除請求を自動化している ²¹ 。	21
NexLaw / Kira / Luminance	契約書レビュー、訴訟支援	NexLawは訴訟向けAIで、確認済みの米国法情報に基づいたリサーチ・文書ドラフト・ケース管理を行う ¹⁸ 。Kiraは1,400以上の条項を抽出・分類して要約し、OpenAIモデルと連携してスマートなレポートを生成する ⁸ 。LuminanceやSpellbookなど他社製品も文書レビューや契約書作成に特化しているが、特許領域での採用実績は少ない。	18 8

4. 生成AI活用のメリットとリスク

メリット

1. 研究開発の加速と特許品質向上

生成AIは膨大な特許文献から瞬時に類似技術を抽出し、新規性や非自明性の検討を支援する。USPTOが試験運用した「Automated Search Pilot Program」は、出願の前段階でAIによる先行技術検索結果

を示し、出願人がクレーム修正や出願判断を行うことで審査回数とコストを削減すると説明している²³。このような早期知見の提供はR&D戦略の迅速化に寄与する。

2. 出願プロセスの効率化

AIツールは発明開示書や図面から明細書の草案を生成し、弁護士の編集時間を短縮する。DeepIP導入事例では、弁護士がAI生成部分を確認しながら精度の高い明細書を素早く作成できたと報告されている¹⁰。Rowan PatentsやPatently Createでは図面・クレーム・本文が同期した環境により、変更箇所を自動的に反映させることで修正漏れを減らす¹⁹。

3. IP管理コストの削減

商標リスク評価や契約書分析にAIを用いることで、専門家による手作業のレビュー量を大幅に減らせる。RiskMarkはAIが類似度評価を行い、従来数日かかっていた分析を瞬時に提供する⁵。Kiraのユーザー企業は、M&Aデューデリジェンスのレポート作成時間が短縮されサービス品質が向上したと報告している²⁴。

4. 知財戦略策定の高度化

AcclaimIPのAI Patent Summariesは、特許の利点・欠点や先行技術との差異を自動でまとめ、複数の視点からの分析を提供する¹⁵。Specterが紹介するTradespaceやMarqVisionは、市場データや模倣品情報をAIで分析し、特許ライセンスやブランド保護の新しい戦略機会を提示している²¹。

課題とリスク

1. 機密情報の漏洩・データプライバシー

一般的なクラウドAIツールは、ユーザーの入力をモデル学習に利用する場合があります、機密情報が第三者に漏れる可能性がある。MBHBは生成AIを利用する際はオンプレミスLLMやプライベートインスタンスを推奨し、弁護士がAI利用に精通することと人間による監督を要求している²⁵²⁶。

IPWatchdogはAIソリューション採用の際に、セキュリティ認証・データ機密性・データ使用条件を評価し、企業のリスク許容度に応じた導入判断を行うべきだと助言する²⁷。

2. 出力の正確性・幻覚 (hallucination)

LLMは現実には存在しない引用や誤った法的分析を生成することがあり、弁護士が厳格に検証する必要がある。NexLawは一般的なAIツールでは米国訴訟に適した専門知識が不足していると指摘し、検証済みデータに基づく専門AIの重要性を強調している¹⁸。

3. 専門家の判断の代替不可

AIツールはあくまで補助であり、特許法や商標法の判断は弁護士が行う必要がある。Patently.comの記事は、生成AIツールが内容の自動生成を支援する一方で、人間の監督と修正が不可欠であると強調する²²。

4. 法律的风险・著作権侵害

AI出力の適切な使用、データ学習における著作物利用などは法的リスクを伴う。Bartz v. Anthropic事件では、裁判所はLLMの学習自体は著作権法上「高度に変容的」でフェアユースに当たるとしたが、海賊版コピーを中央ライブラリに保管した行為はフェアユースに該当しないと判断した²⁸²⁹。この判決はAI開発者にデータソース管理の重要性を示している。

5. 発明者・著作者の帰属問題

発明や著作物をAIが創出した場合、人間の関与が不十分だと保護対象にならない。これについては次節で詳述する。

5. 生成AIと知的財産権に関する法的論点

発明者・著作者の認定

- **AI支援発明の発明者** – USPTOは2024年2月に「AI支援発明に関する発明者ガイダンス」を発表し、特許出願が認められるには人間の「重要な貢献」が必要と明示した。AIが生成したアイデアをそのまま採用しただけでは発明者と認められず、人間がAI出力を評価・修正し発明の核心に寄与していることが重要である³⁰。

- **著作権における人間性の要件** – 2023年の「Zarya of the Dawn」事件では、米国著作権局がMidjourney生成画像に著作権を認めず、作者が制作したテキストとページ配置のみを登録した³¹。2025年のD.C.サーキット裁判所もThaler v. Perlmutter事件で「著作権の基礎は人間の創作であり、AIは著作者になり得ない」と判示した³²³³。この判決は、会社や個人がAI生成物を利用する際には人間の創作的関与が必要であることを強調している。
- **AI学習データのフェアユース** – 2025年6月のBartz v. Anthropic判決で、カリフォルニア北部地区裁判所はAIモデルの学習に著作物を用いること自体はフェアユースと判断したが、海賊版データを蓄積していた部分はフェアユースには当たらないとし、訴訟は継続するとした²⁸²⁹。またSkaddenの分析では、これらの判決は事案特有であり、AI学習全般を合法化したわけではないと指摘されている³⁴³⁵。

特許適格性・公開義務

- USPTOは2024年7月に、AI関連発明の特許適格性に関するガイダンスを更新し、35 U.S.C. § 101に基づく評価方法と具体例を示した。AI発明の対象が抽象的概念でないことや、実際の技術分野に応用されていることを明確にする必要がある³⁶。
- AIアルゴリズムを特許で保護する場合、公開義務によりアルゴリズムが開示されてしまうリスクがある。一方、営業秘密として保持すれば機密を保てるが、独占期間は無期限でも保護が弱く漏洩リスクがある。Greenberg TraurigはAI技術について特許と営業秘密を併用する戦略を推奨している³⁷³⁸。

6. 規制当局の見解・ガイドライン

- **USPTOのAI戦略とパイロットプログラム** – USPTOは2025年1月にAI戦略を発表し、(1) AI政策策定の推進、(2) AI能力・インフラ整備、(3) 責任あるAI利用の促進、(4) 職員のAI専門性向上、(5) 他機関・企業との協力を掲げた³⁹。また、特許審査官を支援する生成AIプログラム「SCOUT」を内部で運用しており、文書レビューや手続案内、コード生成などに利用しているとCrowell & Moringが報告している⁴⁰⁴¹。
- **Automated Search Pilot Program (ASAP!)** – Morgan Lewisの記事によると、USPTOは2025年10月からAIによる先行技術検索の試験運用を開始した。参加者には最大10件の参考文献を含む“Automated Search Results Notice”が送付され、出願人はクレームを修正したり出願可否を判断できる。これにより審査工程が短縮され、費用削減や特許品質向上が期待されている²³。
- **AI支援発明に関するガイダンス（2024年2月）** – USPTOはAIが関与した発明であっても、人間の重要な貢献がない場合は発明者とは認められないと明示した³⁰。このガイダンスは特許出願における発明者欄の記載や発明者の確定に影響する。
- **著作権局の見解** – 米国著作権局は2025年1月にAIに関する第二弾報告書を発表し、生成AIの出力は人間が十分な表現的寄与をしている場合に限り著作権保護を認めると述べた⁴²。

7. 今後のトレンド・展望

1. **法律事務所のAI導入は加速するが慎重** – Federal Bar AssociationとAffiniPayの調査では、2024年には31%の弁護士が生成AIを個人利用していたが、事務所全体での導入は21%にとどまっており、ポリシー策定や倫理的懸念が障壁となっている⁴³。しかし新興事務所や大手ファームが先行導入し、競争の圧力で adoption は拡大すると見込まれる。
2. **専門領域に特化したAIツールの普及** – 一般的なLLMでは法務や特許分野に特化した情報が不足し誤りが多いことから、特許データや判例データで学習したカスタムモデルの需要が高まる。NexLawやDeepIPなどは既にセキュアな独自モデルを提供しており、この流れが続くと予想される¹⁸²。
3. **統合プラットフォーム化とライフサイクル支援** – Patently、DeepIP、Rowan Patentsなどは先行技術調査から明細書作成、図面生成、オフィスアクション応答まで一気通貫で支援するプラットフォームを目指している。QuestelやClarivateも商標検索から監視・侵害対策まで統合し、IP管理のワンストップ化が進む¹⁶¹⁷。

4. **データ品質と倫理の重要性** – AIへの依存が高まるほど、出力の信頼性やデータの法的適格性が重要になる。MBHBやIPWatchdogは、オンプレミス導入、ガバナンス体制、厳格な検証プロセスを推奨しており、企業はAIポリシーや倫理基準を整備する必要がある ²⁵ ²⁷。
5. **規制当局の役割拡大** – USPTOや著作権局はAI政策・ガイドラインを次々に発表し、AI活用の透明性と責任ある利用を求めている。今後はAIを活用する出願者への情報開示義務や、新しいフェアユース判例の動向が知財戦略に影響を与えるだろう ⁴⁰ ²⁸。

結論

米国では特許・商標・契約領域を中心に生成AIの実用化が急速に進んでおり、IPプロフェッショナルや企業は競争力向上のためにAI導入を検討している。生成AIは先行技術調査や明細書作成、商標リスク評価などで大きな効率化をもたらす一方、機密性や出力の正確性に対する懸念も大きい。法的には、AIが直接創出した発明や創作物には人間の関与が必要であり、データ利用の適法性や発明者の認定が重要な論点となる。規制当局は責任あるAI利用を促進しながら、試験的なプログラムやガイドラインを通じて未来の制度設計を進めている。日本企業が米国で生成AIを活用する際は、技術的メリットだけでなく法的・倫理的风险と規制動向を十分に把握し、セキュアな環境と専門家の監督下で導入を進めることが求められる。

¹ AI Prior Art Search Tool | IP Author

<https://ipauthor.com/ai-prior-art-search/>

² DeepIP - Better & Faster Patents with Gen AI

<https://www.deepip.ai/>

³ Generative AI based Patent Drafting | IP Author

<https://ipauthor.com/generative-ai-patent-drafting-by-ip-author/>

⁴ Inside IP Firm Sterne Kessler's Development of Its AI Patent Drafting Tool | Sterne Kessler

<https://www.sternekeessler.com/news-insights/news/inside-ip-firm-sterne-kesslers-development-of-its-ai-patent-drafting-tool/>

⁵ Clarivate Unveils RiskMark: AI Tool for Trademark Risk

<https://clarivate.com/news/clarivate-launches-ai-based-riskmark-to-accelerate-trademark-conflict-assessments/>

⁶ ⁷ AI and Trademarks: What Generative AI Means for IP – Questel

<https://www.questel.com/resourcehub/ai-and-trademarks-what-generative-ai-means-for-trademarks-and-designs/>

⁸ ²⁴ AI Contract Review Software | Kira | Litera

<https://www.litera.com/products/kira>

⁹ Generative AI and the Future of IP Management | MaxVal

<https://www.maxval.com/blog/generative-ai-and-the-future-of-ip-management/>

¹⁰ AI Patent Drafting Tool Boosts Efficiency at Guntin & Gust

<https://www.deepip.ai/case-studies/firm-wide-ai-adoption-unlocking-drafting-efficiency-at-guntin-gust>

¹¹ ¹² SLW Partners with DeepIP to Expand AI Innovation Suite

<https://www.deepip.ai/blog/press-release-slw-expands-ai-innovation-suite-with-deepip-partnership>

¹³ How AI Is Transforming Patent Practice and Law Firm Strategy

<https://www.deepip.ai/blog/ai-patent-practice-law-firm-strategy>

¹⁴ Finnegan Launches Comprehensive AI Practice | Finnegan | Leading IP+ Law Firm

<https://www.finnegan.com/en/firm/news/finnegan-launches-comprehensive-ai-practice.html>

- 15 **High-Quality AI Generated Summaries for Patents | AcclaimIP**
<https://www.acclaimip.com/patent-evaluation/surface-insights-for-patents-quickly-with-anaquas-new-generative-ai-tool/>
- 16 17 **What's new in Brand IP 2025 | Clarivate**
<https://clarivate.com/intellectual-property/brand-ip-solutions/whats-new-in-brand-ip-2025/>
- 18 **NexLaw Blog | U.S. Lawyers Embrace Generative AI—Responsible Adoption in 2025**
<https://www.nexlaw.ai/blog/us-lawyers-embrace-generative-ai-are-law-firms-keeping-up/>
- 19 **AI-Assisted Patent Drafting: Key Insights for Attorneys**
<https://clarivate.com/intellectual-property/blog/understanding-ai-assisted-patent-drafting-what-attorneys-need-to-know/>
- 20 **Paximal - AI Patent Application Preparation**
<https://www.paximal.com/>
- 21 🦾 **Legal AI Landscape**
<https://insights.tryspecter.com/legal-ai-landscape-2025/>
- 22 **Generative AI Patent Drafting Tools: The Top 10**
<https://patently.com/blog/generative-ai-patent-drafting>
- 23 **USPTO Announces Automated Search Pilot Program – Publications**
<https://www.morganlewis.com/pubs/2025/10/uspto-announces-automated-search-pilot-program>
- 25 26 **Applying Generative AI Tools to Patent Law Practice - MBHB**
<https://www.mbhb.com/intelligence/snippets/applying-generative-ai-tools-to-patent-law-practice/>
- 27 **Is Your IP Practice Leveraging AI Innovation? Should It? - IPWatchdog.com | Patents & Intellectual Property Law**
<https://ipwatchdog.com/2025/10/06/your-ip-practice-leveraging-ai-innovation/>
- 28 29 **District Court Issues AI Fair Use Decision: Using Copyrighted Works to Train AI Models Is Fair Use, but Using Pirated Copies to Build a Central Library Is Not | Insights & Resources | Goodwin**
<https://www.goodwinlaw.com/en/insights/publications/2025/06/alerts-practices-aiml-district-court-issues-ai-fair-use-decision>
- 30 **USPTO issues inventorship guidance and examples for AI-assisted inventions | USPTO**
<https://www.uspto.gov/subscription-center/2024/uspto-issues-inventorship-guidance-and-examples-ai-assisted-inventions>
- 31 **2023.02.21 Zarya of the Dawn Letter**
<https://www.copyright.gov/docs/zarya-of-the-dawn.pdf>
- 32 33 **Appellate Court Affirms Human Authorship Requirement for Copyrighting AI-Generated Works | Insights | Skadden, Arps, Slate, Meagher & Flom LLP**
<https://www.skadden.com/insights/publications/2025/03/appellate-court-affirms-human-authorship>
- 34 35 **Fair Use and AI Training: Two Recent Decisions Highlight the Complexity of This Issue | Insights | Skadden, Arps, Slate, Meagher & Flom LLP**
<https://www.skadden.com/insights/publications/2025/07/fair-use-and-ai-training>
- 36 **USPTO issues AI subject matter eligibility guidance | USPTO**
<https://www.uspto.gov/about-us/news-updates/uspto-issues-ai-subject-matter-eligibility-guidance>
- 37 38 **Harnessing Generative AI-Assisted Innovation: Comprehensive IP Protection Through Trade Secrets and Patents**
https://www.gtlaw.com/-/media/files/insights/published-articles/2024/09/harnessing-generative-ai-assisted-innovation-comprehensive-ip-protection-through-trade-secrets-and-patents.pdf?rev=0898e7bdfa364bff8a7f8a73179309ae&sc_lang=en&hash=9370FF9C3D1E13D2E7C16CA801D15424

39 USPTO announces new Artificial Intelligence Strategy to empower responsible implementation of innovation | USPTO

<https://www.uspto.gov/subscription-center/2025/uspto-announces-new-artificial-intelligence-strategy-empower-responsible>

40 AI Innovation: What Companies Need to Know About How the USPTO is Implementing AI Technologies to Modernize its Workflows | Crowell & Moring LLP

<https://www.crowell.com/en/insights/client-alerts/ai-innovation-what-companies-need-to-know-about-how-the-uspto-is-implementing-ai-technologies-to-modernize-its-workflows>

41 AI Will Transform Patent Examination for the Better - Troutman Pepper Locke

<https://www.troutman.com/insights/ai-will-transform-patent-examination-for-the-better/>

42 NewsNet Issue 1060 | U.S. Copyright Office

<https://www.copyright.gov/newsnet/2025/1060.html>

43 The Legal Industry Report 2025 – Federal Bar Association

<https://www.fedbar.org/blog/the-legal-industry-report-2025/>